

自律・責任	自尊感情	協調性	コミュニケーション	思いやり	主体性	特別な支援の充実	市町教育委員会の取組
-------	------	-----	-----------	------	-----	----------	------------

## 自尊感情を高めるための取組

海田町立海田小学校 校長：寺岡 成希【施設泊】国立江田島青少年交流の家

キーワード：問題解決・「絆」・事前一体験活動当日一事後のつながり

### 1 体験活動のねらい

#### (1) 事前アンケートの結果

8月に実施する野外活動の事前アンケートを5月に入ってすぐに行いました。この事前アンケートでは、「相手の立場に立って考えること」や「相手の考えを受け入れること」、また「相手が納得するように伝えること」の項目について、課題と感じている子供たちの状況が分かりました。

また、事前アンケートでは、子供たち一人一人が3泊4日で不安を感じていることを尋ねるようにしました。子供たちの実態を把握するとともに、一人一人の不安解消に向けた対策を個別に講じるようにしました。

#### (2) 方針の決定

事前アンケートの結果を受けて、心の教育の観点を重視することとし、目標と身に付けたい資質・能力を次のように設定しました。

##### ○体験活動での目標

日々の生活とは異なる自然の中での体験活動を通して、友達との関わり合いを通して、円滑なコミュニケーションを図り、自他の良さに気付くことができる。

##### ○身に付けたい資質・能力

仲間との協力（他者と円滑に関わり合える力）	
友達と協力して何かを成し遂げることができた体験	協調性・柔軟性 責任感 コミュニケーション能力 共感力 人としての思いやり・優しさ・信頼感 自己理解 自らへの自信
発見①友達の良さ	
出来ないことを教えてもらった、はげましてもらった体験	人としての思いやり・優しさ 自己理解 自らへの自信
発見②自分の良さ	
できないと思っていたことにも挑戦した体験	チャレンジ精神 主体性・積極性
できないことができるようになった体験	自己理解 自らへの自信

### 生徒指導の三機能を踏まえた取組について

海田小学校では、生徒指導の三機能をいたるところに生かして取組を進めています。

生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導・援助であり、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指すものです。

そして、その自己指導能力を育成するためには、生徒指導の三つの機能をあらゆる教育活動に生かすことが重要だとされています。



- ア 児童生徒に自己存在感を与えること
- イ 共感的な人間関係を育成すること
- ウ 自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること

### 生徒指導の三機能を踏まえた取組ポイント：共感的な人間関係

体験活動の目標は、児童同士と教職員、そして児童同士が、お互いに尊重し共感的に理解し合う人間関係を育成していくことを踏まえた内容となっています。さらに事前アンケートによって、児童一人一人の状況を把握することにより、指導の方針を立てて指導に当たっています。

#### ○テーマの設定

「海小チャレンジ！！～仲間と絆を深めよう～」

3泊4日の体験活動では、日常では経験しない活動がたくさんあり、楽しいこともあります。また、ままならないこともたくさんあります。その中で、一人ではできないことも、仲間と一緒に挑戦し、協力し合うことで成し遂げられることを子供たちに感じさせたいと考えています。

#### (3) 3泊4日体験活動の内容と身に付けさせたい資質・能力との関連

	午前	午後	夜
1日目		オリエンテーション 人間関係づくりプログラム コミュニケーション能力・協調性	
2日目	Cutter研修 達成感・連帯感	野外炊飯 コミュニケーション能力・協調性	海ホテル観察
3日目	海の生物観察	スタッツ練習 コミュニケーション能力・協調性	キャンプファイヤー 達成感・連帯感
4日目	奉仕活動 オリエンテーリング 思いやり コミュニケーション能力・協調性	退所式	

## 2 実践の内容

### (1) 人間関係づくりプログラム

初日に、人間関係づくりプログラムを行いました。この「人間関係づくりプログラム」では、クラスで話し合って目標を決め、手をつないだままフープを隣に送っていく課題に取り組んだり、グループで力を合わせて問題を解決したりする活動が行われました。

始めは、子供たちだけで話し合いを進めていく



ことは難しかったようですが、子供の感想として、「フラフープを通すときに、アドバイスや目標タイムを積極的に考えていてすごいと思いました。」「みんながいろいろな意見を言っているときに、上手にまとめていました。わたしもまとめていくことができるように頑張りたいです。」などがあり、友達の良さに気付いたようです。

日頃の授業では、「相手が分かりやすいように理由をつけて自分の考えを発表する」、「相手の考えを受け止めながら自分の意見を話す」など、表現力の向上に取り組んできましたが、そのことを生かして活動をしているように感じました。

これらの活動を、その日の終わりに改めて振り返り、友達とコミュニケーションをとることの大切さを感じさせたり、一人一人の役割を果たしていくことを再認識させたりしていきま

#### 人間関係づくりプログラムでの児童の感想

- グループで活動するときに大事だと思ったことは、話を最後まで聞くことです。今後、グループで活動するときには、必ず自分の考えを相手に伝えていきたいです。また、相手の意見を理解するようにしていきたいです。
- これまであまり話したことの無い友達とも、たくさん話をすることができました。その後もいろいろと話をするできるようになって、仲を深めることができました。
- 友達のことを考えて行動している様子など、思いやりのある行動を見て、友達の新たな一面に気づきました。友達の良い所をたくさん見つけることができたと思います。

#### さらにステップアップ!!



さらに、体験活動当日にも、すべてがうまく行くとはいりません。そういった状況になった時に、引率者全員でどのような取組をするかを考えていく必要があります。直接子供たちに働きかけるのか、環境等を調整し対応するのか、どのような子供たちにしたいのかを踏まえて共通理解を図り、対応を考えましょう。

#### (2) 本当にしんどい時にこそその相手への思いやり

4日目になると体が疲れてきて、体力的にきつくなります。最終日はオリエンテーションがありました。そこでは、グループの意見がまとまらずすれ違いが起きることもありました。

そんなときも、グループでは、「自分の意見だけを押し付けるのは良くない。」「相手の意見を聞くようにしないといけない。」など、すれ違っていた友達同士が、まずは謝り合い、心を開いていくことができるように、グループで解決をしていったようです。

このように、しんどい中でも子供たち同士でしっかりと考えていくことができたのも、テーマとしている「絆」について理解し、一人一人の子供たちが考えて行動したからだと思います。子供たちは、『絆』の底力を試された。」と言っていました。

#### 本当にしんどい時にこそ、声を掛けてもらった児童の感想

- カッター研修では、本当にしんどい時に友達が「大丈夫。」と声を掛けてくれました。その言葉がとてもうれしくて、最後までがんばろうと思いました。
- 一番つらかった山登りでは、友達が声を掛けてくれたから、なんとか最後まで登りきることができました。友達にかけてもらった言葉で、最後まで頑張ろうと思いました。

○ 最終日のオリエンテーションの時、行先について、自分の考えを押し付けすぎてしまい、ちがう行き方を考えていた友達とけんかになりました。周囲の友達を困らせていることに気付いた時、勇気を出して自分から謝りました。「ごめんね。」と言うと、相手の友達も「ぼくも自分の考えを言い過ぎた。」と言ってくれました。

### 生徒指導の三機能を踏まえた取組ポイント：共感的な人間関係



本当にしんどい時でも、友達と共感的に理解し合うことができています。そのようにできるのも、集団としての高まりがあるからです。

子供たちは友達から受容され支持されることによって、集団の中における自分の姿を客観的に理解し、自分への自信と心理的安定感を強めることとなります。

### 体験活動当日のポイント：トラブル発生！！その対応は？

命に係わる重大な事案は別にして、それ以外のトラブルが発生したときには、大人がすぐに対応策を考えるだけでなく、子供たちに考えさせ、任せる勇気も必要です。トラブルが発生したときに、どのような対応をとるかについては、日頃の学校での取組と同様に、子供たちが成長を実感することができるように働きかけることが大切です。

小学校学習指導要領解説特別活動編には、「児童相互のかかわりを深め、互いのことをより深く理解し、折り合いを付けるなどして人間関係などの諸問題を解決しながら、協調して生活することの大切さが実感できるようにする。」とあります。子供たちのかかわりの中で、さらに実感を伴った取組にしていくと、より効果的です。引用：小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成20年8月）

#### (3) メッセージの交換

今回の野外活動では、最終日に、4日間の活動中に見つけた友達のよさを書き綴ったメッセージを交換しました。子供たちは少々照れながらも、班の人からもらったメッセージカードを、宝物のように見ていました。

こうした経験を通して、子供たち同士がさらに信頼関係を育み、コミュニケーションが取りやすくなったように思います。



### 3 3泊4日の体験活動を終えて

#### (1) 海小輝き発見

本校では、昨年度から運動会や音楽会などの学校行事において、「自分や友達のよさ」「輝いていた場面」を見つける取組を、全校で継続して行っています。体験活動の最終日の行った「メッセージの交換」も、この取組の一環として行ったものです。

これら子供たちが記録したものは、空き教室を活用し常時展示をしています。今後もお互いのよさを見つけ合う活動を意図的に仕組み、子供たちの自尊感情を高める取組を進めています。





## (2) 後輩への報告会

体験活動が終了して、他学年への発表をする時には、本当にしんどい時に試された「絆」について、劇にしていこうとしました。うまくいったときのことだけでなく、うまくいかないときにどのように考えたのかを伝えていくためです。

これらを他の学年に伝える時には、話をするだけでなく劇の手法で内容を伝え、どのようにして解決をしていったのかについて伝えることとしました。



### 他学年への発表をした内容

- 不安な気持ちがあったから、友達同士で頑張ろうと思った。
- けんかをした時には、しばらくどうしようか悩んだけど、「ごめんね。」と謝ると、すぐに仲良くなった。
- 最終日、友達がわたしの良いところをたくさん見つけてくれていた。
- この仲間で、本当に良かったと思った。

### ポイント：子供たちに意識させる短くてインパクトのあるテーマ「絆」

海田小学校では、体験活動の目的を、“絆”として、子供たちの目標として位置付けています。短くてもインパクトのある言葉であれば、体験活動での発表会や体験活動が終了後の指導においても活用することができます。

## さらにステップアップ!!



海田小学校が作った他学年の発表会では、「絆」を次のように子供たちがまとめていきました。

絆とは、苦しい時こそ、なかまと声を掛け合い助け合うことだ。お互いの欠点ではなく、よいところを認め合うことだ。ひとりでは乗り越えられなかったことも、友達と一緒に乗り越えられた。乗り越えるたびに、絆は、より深くなった。

子供たち自らが、言葉の意味を考え、価値づけていくことができます。これらの発表を作り上げていく過程においても、子供たちの自尊感情は高まっています。

## 生徒指導の三機能を踏まえた取組ポイント：自己存在感

自己存在感

共感

自己決定

多様な集団活動の中で児童生徒にそれぞれに役割を受け持たせ、自己存在感を持たせ、自己の思いを実現する機会を十分に与えるとともに、集団との関係で自己の在り方を自覚させるように指導し、集団の一員としての連帯感や連帯意識、責任感を養うことが大切です。

また、社会の一員として生活の充実と向上のために進んで貢献していきうとする社会性の基礎となる態度や行動を身に付け、様々な場面で自己の能力をより良く生かし自己実現を図るようにさせることも大切です。

引用：生徒指導提要（平成22年3月）

### (3) 学校での授業における変化

野外活動に行く前と比べて、子供たちは「話し上手、聞き上手」になったように思います。

授業中、以前はあまり自分の考えを述べなかった児童が進んで考えを述べるようになったり、相手の考えとちがう場合、「ちがいます」という言い方に加え、「たしかにその意見も分かるんだけど」と、相手の考えを受け止めながら話をしたりできるようになりました。また、「質問」という形で相手に再度考えてもらうように促すなど、友達の考えを尊重しながら自分の考えを言える子供が増えてきました。



このような子供たちの成長によって、考えをまとめたり深めたりする場合に、積極的に子供同士による議論する活動が展開できるようになってきました。このように「話す・聞く」の力が向上した背景には、3泊4日の体験活動を通じて、学校では見ることができない友達の姿を見ることにより、子供たち同士の信頼関係が深まったことが大きいと感じています。